

日本共産党市議会議員団 週刊議会報告

発行
日本共産党市議団
岡野長寿
0845-22-2596
魚谷さとる
0848-22-2810

決算 水産業費 漁港建設より後継者作りを 民生費 生活保護 収入あり世帯が約8割

【水産業費】決算委員会の水産業費の審査で魚谷議員は、予算の使い方について「漁港建設から後継者作りを重点に」するよう求めました。そうでないと、

- 【水産業費の状況】
- ★水産業費の決算額 3億3701万円
 - ★海老漁港の建設費(令和4年度分) 1億4892万円
 - ★海老漁港総事業費(予算) 約7億円
 - ★登録漁船 9隻、外来船 35隻
 - ★後継者作りに関する事業費予算など
 - 令和4年度新規漁業者 0人
 - 新規漁業者研修費 9万円
 - 漁業設備貸付資金 90万円

【民生費】民生費に関して魚谷議員は、生活保護世帯の状況を質問しました。

- 【生活保護世帯の状況】
- ★令和4年度の需給世帯数・人数 1187世帯・1462人
 - ★前年度比 2世帯減・4人減
 - ★何らかの収入がある世帯数 970世帯
 - ★相談者数 307人
 - ★生活保護費の内の市負担分 25%

今後「漁港は立派になったが、魚をとる人がいなくなるのでは」と警鐘を鳴らしました。具体的には上表にあるように、海老漁港などにはすでに約8億円の事業費が投じられていますが、漁船登録はわずか9隻、外来船が35隻です。その一方、新規漁業者を作り出す予算は、新規漁業者研修費がわずか9万円、漁業設備貸付資金が90万円などがありましたが、新規漁業者がいなかったため使われていませんでした。魚谷議員は、山口県や島根県のように、収入が安定するまでの2年間、月15万円を支給する制度の検討を求めました。

は、1187世帯(1462人)で、前年度比では2世帯減(4人減)となっています。生活保護については、保護費だけに頼っているのではないかと考えている人が多い中、魚谷議員は年金やアルバイトなどで何らかの収入がある世帯の割合について質問。

担当課長は、81.7%の世帯が何らかの収入があると答えました。また、生活保護の相談に来た人は307人で、新規に生活保護世帯が204世帯増えたと答えました。

【人口減少対策に財政出動が必要】

- ★子育て支援の拡充
- ★非正規職員の正規化
- ★市営住宅(若者世帯向け)所得制限撤廃などやるべきことが

尾道市の一般会計基金残高の推移

項目	R2	R3	R4
財政調整基金	45.8億	47.2億	47.9億
その他の基金	63.7億	89.8億	94.5億
合計	109.5億	137億	142.4億

岡野議員は決算特別委員会で「新自由主義の政治が公務員削減と非正規職の増大、業務の民間委託をすすめる、教育、保育、保健、医療などの公的分野でも人間らしい雇用が破壊されてきた。これにより若者が家庭を持て安心して子育てができなくなりました。人口減少の一因だ」と述べ、増え続ける基金を使って積極的財政出動を求めました。

また、8時間労働など正職員と同じくフルタイムで働く非正規職員の正規化をはかること。結婚して住むところを探そうとする若者に市営住宅に入居できるように条例を改正することを求めました。なお基金は2年前より3億9千万円も増やしています(上表参照)。



説明を受けて質問する魚谷議員

議会運営委員会が、岩倉、犬山市議会へ視察

―魚谷議員の視察報告から―

議会運営委員会は今日1日に愛知県の岩倉市議会、2日に犬山市議会に視察に行きました。1日目の岩倉市議会の視察の主なテーマは、「議会サポーター制度」で、市民から議会について

の意見を聞くために、公募と無作為抽出で500名を年代別を選び、サポーターの依頼を行いました。結果は20名程度が応じています。サポーターは、議会傍聴や議員との意見交換などを行うとのこと。2日目の犬山市議会の主なテーマは、「市民フレックススピーチ制度」で、市民が希望して5分間程度本会議で自分の考えを発言できる制度です。これまでの実績では5人くらいが発言しているようでした。議会では必要があれば出された意見を協議し、行政に働きかけを

行い、中学校の制服が改善された実績があるとのことでした。私は両市議会に一般質問について、事前に質問していました。両市議会とも、ほぼ全議員が質問するようで、質問時間は質問と答弁を合わせて60分とのことでした。質問の順番は、提出順または、くじ引きで行っているようで、尾道市議会とは違っていました。両市議会の視察を通じて感じたのは、両市議会とも議会に対する市民の意見を積極的に聞く姿勢で、この点で尾道市議会は、まだその努力が足りないことを実感しました。